

昔、リサンド、アルツロ、クリスチャンという三人の息子を持った、王様が住んでいました。これらの内、リサンドが長男で、クリスチャンは、末っ子でした。

さて、王様は、彼の宮殿の庭に、好きな植物がありました。その植物については、大変不思議なことがありました。何でも、その植物の健康状態が、王様の健康状態に結びついている、ということです。だから、もし植物の状態が、健康なら、王様も健康で、もし、植物が病気なら、王様も病気が、というわけです。

王様は病気になりたくありませんでした。だから、庭師にその植物をよく世話するように、そして、その結果彼は大変健康だったのです。

ある朝、王様は目を覚まして、彼の気分が良くないことがわかりました。彼は、好きな植物に何か悪いことがあることを知り、三人の息子を呼びました。

「私は今朝、気分が優れない。」と王様は彼らに告げました。「私のお気に入りの植物に何か悪いことが起こったに違いない。行って、見つけなさい。」

「三人の兄弟は、庭に行き、その植物の葉と枝がいくらか食べられているのを見つけました。

彼らの見たことの報告が王様になされ、王様は言いました。「リサンドロ、今夜植物を警護しなさい。見ていたら、それは敵から安全だろう。」

リサンドロは、日没になるとすぐに、その植物の警護に立ちました。しかし、真夜中の時間になると、彼は眠り込んでしまいました。1時になると、白馬が庭に飛んで来ました。それは、少し葉を食べて、飛んで行きました。2時になると、黒い馬が飛んできて、同じように何枚か葉を食べ、飛んで行きました。3時になると、赤馬が飛んできて2本の枝を食べて、飛んで行きました。不思議なことに、3頭の馬は飛べたのです。

朝、王様が目を覚ますと、彼の気分はちっとも良くなっていません。彼は、リサンドロが植物を警護するのを失敗したと知りました。

そして、彼は二番目の息子を呼んで、言いました。「アルツロ、もし、私を愛し、わたしが元気

になってほしいなら、今夜、あの植物の警護をして、何も起こらないように、見張りなさい。」

夜になるとすぐ、アルツロは庭に立って、植物を警護しました。しかし、真夜中になると、彼は寝てしまいました。1時になると白馬が飛んできて、葉を少し食べ、飛んで行きました。2時になると、黒馬が飛んできて、葉をいくらか食べて、出てゆきました。そして、3時になると、赤馬が入ってきて、枝を2本食べて、飛び去りました。

朝、王様は目を覚まし、彼は自分の具合が悪くなったことに気づきました。彼は体が動きにくく、アルツロが、王様の好きな庭の木の警護に失敗したことを知りました。

末っ子のクリスチャンは、彼の父である王様が大変重い病気であることを知りました。そこで、彼は、王様の前に頭を垂れて、そして言いました。「お父さん、私が今夜あなたの木を警護します。それを食べている者を捕まえられるかもしれません。」

「お前はほんの少年に過ぎない、クリスチャン。」と王様は言いました。「もう少し、大きくなるまで待て。」

しかし、クリスチャンは、自分がもう一人前の男である、と言い張りました。そこで、王様はついに彼が植物の警護にあたることに同意しました。

クリスチャンは、ふたりの兄が、植物の警護中に寝てしまったことを知っていました。そこで、彼はずっと起きておく方法を考えました。彼は、ナイフとレモンを持ってきました。夜の間、クリスチャンは三回眠くなりましたが、しかし、そのたびに、彼は指を切って、傷口に、レモンの汁を落としました。この方法で、クリスチャンは真夜中、起きていられました。

1時に白馬が庭に飛んできましたが、それが葉をかじる前に、クリスチャンは馬の背中に飛び乗りました。驚いた馬は、向きを変えて、クリスチャンを乗せて飛び去りました。

少しの時間、クリスチャンは、白馬をつかって、空に輪を作らせました。すると、馬は疲れて、そして言いました、「友よ、私を下ろさせてくれ、そうしたら、危急の時、あなたを助けよう。」

クリスチャンは馬を降ろし、宮殿の庭に帰し、そして、それを飛び去らせました。

二時になると、黒馬が庭に飛んできました。それが、まさに葉を食べようとしている時、クリスチャンはその背に乗って、飛び立たせました。

クリスチャンは黒馬に、空でしばらくの間、輪を描いて飛ばしました。すると馬は疲れて、言いました。「友よ、私を下ろしてください。あなたが危急の時は、あなたを助けましょう。」

クリスチャンは、馬を宮殿の庭に飛んで帰らせ、それを去らせました。

三時になると、赤馬が庭に飛んできて、しかし枝を食べる前に、クリスチャンは、その背に飛び乗りました。馬はしばらくの間、空に輪を描いて飛ばしました。すると、馬は疲れて、言いました。「友よ、私を下ろしてください。あなたが危急な時は、助けます。」

クリスチャンは馬を降ろし、庭へ帰しました。それから去らせました。

王が朝起き上がってみると、彼は健康で、強さを感じました。彼はクリスチャンを呼んで、言いました。「息子よ、お前は私の植物をよく守ってくれた。それは、どうやったんだ？」

クリスチャンは父にも、三頭の馬についての秘密は共有したくありませんでした。「もし良かったら、お父さん、それは私自身の秘密にさせてください。」と彼は言いました。

「よろしい、私の息子よ。」と王様は答えました。

何年も過ぎました。三人の兄弟はすてきな若者に育ちました。ある日王様は言いました。「私の息子たちよ、私は年取った。結婚する時だ。お前たちみんな、行って、それぞれ妻を探しなさい。」

次の朝早く、リサンドロとアルツロは、馬小屋に行きました。彼らは二頭の最も強い馬を取り、乗って出かけて行きました。

クリスチャンは、しわくちなな年取った馬を取り、すぐに裏から出ました。彼の馬は、兄たちの強い馬に遅れずに、ついてゆくことはできませんでした。

クリスチャンは止まって、顔を上げ、言いました。「白馬、私を兄たちの所へ連れて行ってくれ！」

すぐに、クリスチャンが命を助けた白馬が、彼の前に立って、彼と彼の細い馬を連れて兄たちからそう遠くない場所へ行きました。

「見る！」リサンドロはアルツロに言いました。「クリスチャンが来たぞ。何か奇跡を使って、あいつの馬は我々に追いついた。」そして、彼らは、笑いに笑い、しかしクリスチャンは何も言いませんでした。

リサンドロとアルツロは、クリスチャンに先に行くように命じましたが、彼は、おとなしく言いました。「私は、あなたたちの後に行きます。」

そして、彼のこともっと笑ってから、リサンドロとアルツロは彼らの馬で出発し、残ったクリスチャンは、ずっと後に行きました。

クリスチャンの兄たちが彼を再び見た時、彼を笑い、彼のやせた馬を見て、もっと笑いました。そして彼らは飛んで行きました。

クリスチャンはすぐに、ずっと後ろに残され、顔を上げて、彼は言いました。「赤馬、僕を兄たちの所へ連れて行ってくれ！」

すぐに赤馬が現れ、彼が言われたとおりに、行いました。

午後も遅くなって、三兄弟は老女の家に行きました。

「夜、ここに泊まってもいいですか？」とリサンドロが彼女に聞きました。

「いいよ、どうぞ。」と彼女は答えました。

夕食後、彼女は三兄弟に、なぜ、こんなに遠くまで旅をしているのか、聞きました。リサンドロは、彼らの父である王様が、彼らそれぞれに妻を探すことを願っていることを話しました。

「私は、若く美しい王女を知っているよ。」と彼女は言いました。「しかし、彼女は、彼女の父の宮殿の一番高い塔を越えて飛べる馬を持っている男とだけ、結婚するそうだよ。大勢の若い男が彼女を手に入れようとしたが、今までのところ、誰も成功していないんだ。」

「この宮殿は、どこにあるんだい？」とアルツロが聞きました。

老女は彼らに告げて、次の朝、三兄弟はその道

フィリピン 神話と伝説

を行いました。一日旅をして、彼らは、美しい王女が住む宮殿に着きました。直ちに、彼らは、王と彼の娘である王女に、会いに行き、彼らの訪問の理由を告げました。

リサンドロとアルツロは、最初の挑戦です。彼らはその馬に王様の宮殿の最も高い塔を飛び越えさそうとしました。彼らは何度も挑戦しましたが、彼らは宮殿の堀を越えることもできませんでした。リサンドロとアルツロは二頭の大きな、強い馬を買いました。もう一度、彼らは宮殿の塔を、彼らの馬に飛び越えさそうとしましたが、なおも、失敗しました。

彼らが疲れきった時、クリスチャンは言いました。「私にも挑戦させてください。」

リサンドロとアルツロは彼を笑いました。「お前は、俺たちのように落ちるよ。」と彼らは言いました。

しかし、クリスチャンは彼らに、彼に彼の幸運を試させるように頼み、彼らは最終的に同意しました。

そして、クリスチャンは黒馬、白馬、赤馬を呼び出しました。黒馬は彼に素晴らしい服を与え、赤馬はかわいい帽子を与えました。白馬は彼を宮殿に導きました。

「王女の所へ行ったら、あなたの帽子を取りなさい。」と白馬がクリスチャンに告げました。

すると、白馬は空へ飛んで、宮殿の最も高い塔の上を一周し、クリスチャンをすぐに王女の部屋に連れて行きました。

大きな叫び声の下で群衆から起こりました。多くの挑戦したが失敗した王子たちも、彼らの成功したライバルを賞賛しないではいられませんでした。

「あなたは、私の希望を叶えてくださいました。」と王女はクリスチャンが彼女に帽子を取った時、話しました。

クリスチャンは彼女に感謝を述べ、馬に乗って飛んで行きました。

間もなく、クリスチャンは、王女の所へ帰って、言いました。「お嬢様、私はあなたを私と一緒に連れてゆくために来ました。」そして、王女は彼と行きました。

クリスチャンが帰ってきたのを見て、王様はどんなにうれしかったことでしょう。彼は、クリスチャンが連れてきたかわいい若い王女が、彼の義理の娘になること聞いて、もっと幸せをかんじたでしょう。クリスチャンと王女は結婚し、ずっと幸せに暮らしました。クリスチャンのふたりの兄は、もう帰って来ないで、王国の遠いところへ姿を隠しました。

練習問題

語彙の学び

次の言葉の意味を辞書で調べなさい。その言葉を使って、文章を作りなさい。

- 1 . admiration
- 2 . rival
- 3 . taunt
- 4 . clever
- 5 . Punishment
- 6 . proceeded
- 7 . steeds
- 8 . nibble

良い答えを選びなさい。

括弧の中の良い答えを選びなさい。

- 1 . 王様がいました。かれには (5 . 4 . 3 .) 人の息子がいました。
- 2 . 王様は、好きな (花 木 植物) が庭にありました。
- 3 . 王様は (空腹に 眠く 病気に) なりたくありませんでした。
- 4 . 動物が庭に来ました。そこで植物を食べたのは (水牛 山羊 馬) でした。
- 5 . (長男 次男 末っ子) は、植物を警護するのに成功しました。
- 6 . 王様は、彼の息子たちに (友 床屋 妻) を探させたかったです。
- 7 . 宮殿の (台所 堀 塔) を馬で越えさせることができた者が、王女と結婚できました。
- 8 . 三人の兄弟たちの中で、王女を獲得できたのは、 (リサンドロ アルツロ クリスチャン) 。
- 9 . クリスチャンのかわいい帽子をくれたのは、 (黒馬 白馬 赤馬)
- 10 . 二人の兄は (死んだ 宮殿に帰った 他の王国に身を隠した)

フィリピン 神話と伝説
明確化と発展の評価

1 . 兄弟は、お互いが良くなるように支えあうものだが、この話では二人の兄は、若い弟を悪く取り扱った。あなたがリサンドロかアルツロならクリスチャンをどうしますか？

2 . この話の道徳的教えは何ですか？それは現代においても当てはまりますか？